

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	人との交流・家族・地域とのつながりを理念の一つとし、風通しの良い地域に開かれた、ホームを目指して取り組んでいる。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のミーティングや会議、事務所内・リビングの掲示板を利用して理念の共有を心掛けている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族や来苑者が来られた際に気軽に見られる様、玄関先と壁に貼り出している。又、行事等ある際は文書を近所の方へは回覧板や町内の掲示板を使いお知らせしている。民生員や各種団体の見学を受け入れを積極的に行い理解を得られるようにしている。老人会の総会に職員が参加し、事業の実践などを伝えるようにしている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所のスーパーや商店への買物、散歩・畑作業の際などに近所の方と挨拶を交わしている。又、ご近所の方へ季節にちなんだ調理(笹団子など)などおすそ分けしたり、出来た野菜を頂いたりして交流を持っている。災害時の協力が得られるように依頼し、承諾を得ている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の方や学校の生徒さんがボランティアに来られたり、施設の行事と一緒に参加している。又、地元中学校の行事(運動会)・託児所の行事に参加させて頂く事や子供会のリサイクル運動に協力している。祭りなどの行事を開催し地域の方々にも楽しんでいただいている。		今年度は地域の敬老会やさいの神への参加も予定している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所前後の段階で家族等へ十分な説明を行い、理解、納得を得ている。又その都度ご利用者の状況に合わせて家族へこまめに連絡をし、関係作りに努めている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>市の介護相談員を定期的に受け入れ、利用者の相談にのってもらっている。頂いたアドバイスや意見等はミーティング時、職員に伝え、ケアに繋げている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用の状態、状況は面会時等に伝え、状態に合わせてその都度電話連絡等で伝えている。日頃の様子や職員の異動等については文面(写真を交えて)で報告している。また、ホーム内には写真を張り出したり、アルバムを作成し、いつでも見て日々暮らしている様子が分かる環境を整えている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族や親戚などが面会に来やすい雰囲気づくりとその都度家族と職員が交流を持ち、気軽に何でも話せる(相談できる)関係作りを心掛けている。第三者委員を設置し、その連絡先を明記し、掲示している。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎日のミーティング時では開設者や責任者が参加し、意見を出し合い反映させている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務表作成時に職員の希望を受け入れ利用者の生活・行事や活動に合わせた無理のない勤務シフトとなっている。その他については勤務変更にて対応している。また、隣接するサービス事業者と毎日の申し送りにて活動等に応じて協働している。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動時は利用者が混乱しないようにきちんと説明している。掲示板を利用し写真等を使いその都度分かりやすく掲示している。</p>	
18-2	<p>マニュアルの整備</p> <p>サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。</p>	<p>マニュアルを作成し、必要時はその都度見直しを行っている。事務所内の常に手の取れる場所に置き、必要な時にいつでも見れるようにしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている	法人内で定期的に研修会が行われている。又、法人外の研修や講演などを受ける機会がある。エルダー制度をとり新人教育を行っている。他にも、法人が県から受託している認知症介護研修事業のスタッフとして携わることで、知識習得に繋げている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内でグループホーム部会を設立し課題について話し合いをしいる。法人内での交換研修や老人性認知症センター主催の事例検討会へ毎月参加している。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	一人で悩みを抱え込まない様職員間での関係作りに努めている。勤務時間内に気分転換ができるよう休憩室を確保している。管理者は各職員の話聞き、必要な相談・アドバイスが貰いやすい環境作りに努めている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得に向けた支援を行っている。職員個々の努力や実績、勤務状況を把握しており、各自が向上心を持って働けるようにアドバイスを行っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面接で生活の状態の把握をするよう自宅訪問や利用している。サービス事業者から情報を得ている。また、本人から直接話を聞くようにしている。利用者が今何を求めているのか、何で困っているかをその人の様子や本人から話を聞くことでその人の思いを把握するよう努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が不安に思っている事、今までの苦労など、ゆっくりと話せる時間を設け、安心して相談できる様な関係作りに努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	入居の申し込みのときに家族より話をよく聞くようにしている。利用者に適したサービス、支援を見極め、必要に応じて担当のケアマネジャーへ連絡しサービス事業者へ繋げるなどの対応をしている。		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	ホーム内の見学をして頂いたり、近隣のグループホームのゲストルームを利用して頂き、ご家族・ご利用者が利用してからの入居や、実際に雰囲気を覚えてもらっている。各職員も安心してご利用していただけるよう日々努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	利用者のできることできないことを見極め、役割分担にてお互いが協働しながら生活が送れるよう場面作りや声掛けをしている。また、利用者から職員が教えてもらう場面が多くある。食事作りや畑仕事などの馴染みの活動の中で力を発揮できるよう工夫をしている。		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	利用者の生活を共に支え合う関係であり、利用者に変化等ある時は、随時報告をし協力を頂いている。又行事等にも参加協力を頂き、一緒にご利用者を支える協力者となるよう関係作りにも力を入れている。家族協力を形成している。		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	家族、本人の思いを見極めながら、職員はご利用者の思いや気持ちを代弁しこれまでの家族関係を継続できるよう努めている。又、行事等、家族と本人が同じ時間を過ごして頂く機会を多く持てるよう配慮している。		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	昔から行っている美容室や墓参り、町内の人との旅行や食事会への参加など、一人一人の生活習慣を尊重し、馴染みの方との関わりを大切にしている。		
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	気の合う人同士で過ごせる場面作りをしている。孤立する事のないよう時に職員が間に入り関係作りに努めている。日頃の生活以外にも出店の準備や行事など目標に向かって支え合い、暮らしていけるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了しても様々な相談に応じたり、お茶を飲みに来られ、交流が続いている。入院中のご利用者が退院後、法人内のサービスで受け入れるように約束をしている。		入院にて退居された方に関して、本人、家族が不安にならない様引き続き相談等応じていきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、言葉や表情などからどんな思いを持っているのか把握に努めている。また、職員だけでなく家族からもこれまでの本人について伺い本人・家族・職員でその都度検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問時に家族や本人とお話させて頂いたり、部屋の写真を撮らせてもらい、施設での部屋作りに役立てている。利用してきたサービス事業所から、経過を伺っている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日のミーティング時、利用者の様子等を日々の記録を使い伝達し情報(状態)を共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族との関わりの中で思いや意見を聞いている。それを含めてアセスメント、モニタリング、本人・家族を含めてのカンファレンスを行い、ケアプランの作成、見直しを行っている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	心身状態や環境の変化がある場合、その都度見直しをするようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の関わりで気付いた事を記録に残し、毎日のミーティング時、職員間で情報の共有をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じ、法人内の機関との連携をとり支援を行っている。看護職員配置により本人・家族・職員が安心して対応できる場合が多くある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	隣接する介護サービス事業所に本人の情報を提供し、いざという時に協力してもらえるようにしている。		本人が安心して楽しく生活が送れるようさらに地域の社会資源を活用していきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の食事会の参加や町内の方との日帰り旅行の継続の為に必要なサービス機関と連携を取り合っている。また隣接する敷地内にあるパワーリハビリステーション、特養での行事、高齢者センターでの行事などへ参加している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの方から参加して頂き、支援に関する情報交換協力関係を築いている。また、毎日のミーティングで同席し地域の情報を得ている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の状態に合わせて家族・本人と相談し受診の際や入院の時は介護連絡票やバイタル一覧表を作成し日々の状態を主治医へ報告している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院(理事長が老人精神医学会専門医)に相談し、必要な助言をして頂いている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	非常勤ではあるが、配置の看護職員と相談、連絡できる体制をとっており、日々の健康管理に努めている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医師(主治医)、ケースワーカー、家族と連絡を取りながら、退院時期や退院後について情報交換を行っている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りを前提にした受け入れはしていない。入所後に重度化した場合や終末期のあり方について説明をし、同意を得ている。入所後は状態変化に合わせて相談させて頂いている。法人内に多様なサービスがある。本人にとってその都度何処で過されるのが適当か検討することとしている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化された場合における対応に伴う指針があり、それに合った支援を行い職員間での情報の共有を図っている。今のところ該当者はいられないが、重度や終末期の利用者に対して安心と安全を確保して暮らす為に家族や医療機関と連携を図りながらチームで支援している。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている			半年間の中では、住み替えをしているケースはないが、今後は有り得ることである為、家族、関係者と十分に話し合いを行い、本人が混乱しない様な支援を行っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックを活用し、一人一人の排泄パターンを把握し、その人に合った必要な支援を行い、気持ちよく排泄できる様努めている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人一人の希望や体調に合わせてながら、本人のペースに合わせて入浴が楽しめるよう時間や順番など工夫しながら行っている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	皆と過ごす時間と、個人の時間を大切に、安心して休息できるよう支援している。夜間眠れない方には温かい飲み物をお勧めしたり、話を聞いたり安眠へ繋がる様支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の好きなことや得意なことを把握し、生活の中での役割が見出せるように支援している。外出についてもご利用者と相談しながら行っている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の希望に合わせて所持してもらっている。買物の時に支払いをしてもらうなど、日常生活の中でお金が使えるよう支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や利用者の希望に応じて散歩や買物(3.8の市・5.10の市)に出掛けている。歩行が困難な方でも車椅子を利用し出掛けている。散歩など好きな時に安全に出掛けられる様支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日々の会話の中で聞き出し、一人や二、三人又は全員でと目的、場所に合わせて出掛ける計画をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば本人に電話を掛けてもらったり手紙を書く手伝いをし、自由にできる様支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	本人の居室やリビング、庭などで一緒にお茶を飲みながらゆっくりと会話できる様支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	隣接する特養と協働の研修会に参加し理解している。対応方法が分からない時はミーティング等で相談、検討をしている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関、リビング等は施錠していない。		居室の鍵を外す方向で家族、利用者への説明、危険箇所把握、排除を進めている。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、利用者と同じ空間で、安否を確認しており、夜間は一時間おきに巡回をし利用者の安全に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要な物の持込や取り扱いは一人一人に合わせた対応をしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりはっとや事故報告書にてその都度検討し再発防止に努めている。必要に応じてケアプランへ繋げる努力をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	会議や研修、講演会参加により対応を学んでいる。又スタッフルームにてマニュアルを張り出し、確認をしている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を定期的に行い避難方法を身につける努力をしている。		今後、日中、夜間の状況での防災訓練をしていく必要あり、職員だけの対応ではなく、地域の方の協力についても検討していく。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人一人に起こり得るリスクについて家族へ説明し、ケアプランに立案し対応している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調や顔色、様子の変化に注意しており、様子等の変化が見られた時はその都度もしくはミーティング時に報告し、職員間共用し対応にあたっている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、用量など記された説明用紙をファイルに閉じて随時確認できるようになっている。		薬の目的、副作用など細かな所までの把握が不十分である。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日乳製品の提供や食事、水分等の摂取に注意している。日々生活の中で身体を動かす働きかけをし、運動してもらうよう支援している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時、毎食後、就前に歯磨き等の声掛けを行っている。又義歯を使用している方は毎食後外しての歯磨きへの声掛けをし、一人一人に合わせた口腔ケアを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量のチェックをしている。少ない時は、職員同志情報を共有し、必要量確保できる様その方に合わせた支援をしている。管理栄養士より栄養バランス等、アドバイスをいただきながら献立を作成している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症のマニュアルに添って対応し、研修も行っている。常にマニュアルを確認できるようにしている。通年、来訪者にはうがい手洗いを励行している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防の為、冷蔵庫内の洗浄、まな板等の調理器具は定期的に殺菌消毒をしている。食材管理にも気をつけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の草花や頂いた花など、利用者から生けてもらい、温かく親しみやすい雰囲気作りに努めている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じる装飾や馴染みの音楽などに配慮し、居心地のよい空間作りに努めている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭へ気軽に出れるようにしている。玄関のソファーやリビングなど、思い思いに過ごせる空間がある。		冬に向けて、居室、リビングはじめ居心地のよいスペースを考えていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを持ち込んでもらうなどその方に合った居室作りを利用者・家族・職員で一緒にしている。		居室作りに関しては、不十分なところがある為、今後居室担当を中心に居心地の良い居室作りをしていく。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	風通しや湿度、室温の変化に気をつけ、定期的に換気をしている。利用者が居心地の良いように配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺など必要な部分の取り付け、安全に暮らせるように工夫している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱や失敗を防げるようにさりげなく声掛けしたり、援助する事で自立した生活が送れるように支援している。		その時々でさりげない必要なケアができるように研修などを活用して全職員が学び、向上できるようにしたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑や庭での作業を楽しんでいる。テラスや庭へも自由に入りし、日々の植物の成長を目で見手に触れて楽しんでいる。		

サービスの成果に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ 恵まれた環境の中でこどもけやき苑の苑児達と気軽に交流でき苑児成長を共に喜びあえる環境にて潤いを持たせている。
- ・ 庭や畑に出て季節の草花や作物に触れ、冬はリビングから雪景色をみて、四季折々の楽しみ方が出来る。
- ・ 一人一人のできる力の発揮の場として家事・趣味を楽しむ場面の提供。ご利用者同志や近所の方々との交流がしやすい環境。
- ・ 動物達と気軽にかかわりが持てる。
- ・ 建物のづくりは雪国特有のせいがい造りとなっている。リビングは開放感のある高い天井を採用し床には桐材を使い全体的に温かい雰囲気を作っている。